

転勤により叶った夢

栃木県立県央高等産業技術学校の渡辺須美子（旧姓船橋）先生からリレーを受けました福島の有賀です。渡辺先生は、能開大のサイクリング部の先輩です。今年の8月に、北関東周辺（福島は東北ですが）に住んでいる元サイクリング部員数人で集ったときに、「有賀君、次やって」と言われ、お酒も飲んでいたので、何も考えずに「はい」と言ってしまう、今回引き受けることになりました。

早いもので指導員になり7年目になります。最初の勤務地は会津高等技術専門校の電気科（電気工事科）でした。6年勤務しました。そして、今年の春に現在の職場である郡山高等技術専門校に転勤になりました。担当している科は、情報制御システム科（コンピュータ制御科）です。指導員免許こそ持っていますが、ペーパー指導員であり、電気工事とコンピュータは別世界であることを実感しています。転勤が決まり担当科を聞いたときは「えっ」と思いましたが、現在は学生の授業を実施しながら、学生と一緒に猛勉強中です。

転勤により職場環境が変わり、担当科目も変わったため、ついでに通勤手段も変えようと思いました。私は以前から、「電車やバスなどの公共交通機関で通勤したい」という、ちょっとした夢がありました。また、両親の近くに住みたいという考えもあったので、両親の住む白河市に住むことにしました。私にとっては、10年ぶりに生まれ育った街に戻ることにになります。こうして白河から郡山まで、夢であった人生初の電車通勤が始まることになりました。距離にすると50キロ弱くらいで、車を使うと1時間以上はかかりますが、新幹線なら15分、在来線でも40分ほどで着きます。

この電車通勤が始まって気づいたことを述べます。1

点目は高校生の携帯電話の所持率に驚いたことです。おそらく8割から9割くらいは持っていると思います。この高校生に感心したことは、きちんとマナーを守っていて、電車の中で携帯電話が鳴るということはほとんどありません。まして通話をしていることはありません。これは私の持っていたイメージとは全く逆で、私にとっては意外なことでした。

もう1点は、自分一人になれる時間ができたことです。車の通勤でも一人の時間ですが、車は運転をしますので、電車のように乗っているだけとは違います。特に在来線に乗った朝は、授業の予習など勉強の時間に活用でき、大変有意義なひとときとなっています。しかし、良い面ばかりではありません。自宅一駅、駅一学校は自転車のため天気の影響を受けますし、新白河駅はマイナーな駅のため、新幹線の本数は1時間に1本という不便さもあります。

車での通勤に比べると、朝の出発時間が早くなり妻にとっては負担になっているとは思いますが、家族の協力もあり、乗り遅れたりすることもなく通勤できています。また、3歳になる子どもは毎朝家を出るときに「今日も電車で行くの。いいな〜。」と言って見送ってくれます。家族の協力がなくては、私の小さな夢は叶わなかったと思います。これからも、家族に感謝し大切にしたいと思います。



次のリレーは福井県立敦賀産業技術専門学院の横田先生です。横田先生は能開大の先輩として、また技能五輪全国大会や能開大の研修などで大変お世話になりました。よろしく願いいたします。